

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	今年度、社会福祉法人格を取得し「社会福祉法人六三四」として新たなスタートを切り、支援の充実に向け職員も一丸となり取り組んでいます
	内容	運営強化5ヶ年計画において平成30年度4月からの社会福祉法人格取得を目指し、全職員で方向性を共有しながら計画的に運営を進め、計画通り平成30年4月1日より社会福祉法人格を取得し「社会福祉法人六三四」として新たなスタートを切り、既存の事業体と新規事業帯の存在意義についてより一層明確にしていく事を今後の課題として取り組むことにしています。社会福祉法人化に伴い職員の意欲も高まっており、利用者への新規プログラムについても利用者の意向や状態等を確認しながら少しずつ前進させるなど、職員間の結束力も高まっています。
2	タイトル	医療とスムーズな連携を図れる体制を築いており、医療と福祉の一体化という地域のモデル形態になるべく活動に率先して取り組んでいます
	内容	利用者の平均年齢の上昇に伴い、医療や介護保険との関わりも増え、事業所の現状だけでなく、業界全体の動向もふまえ、「医療と福祉の一体化」を目指しています。事業所敷地内には、内科、神経内科、リハビリテーション科を有するクリニックが隣接しており、嘱託医、看護師と日常的に連携が取れる体制があります。事業所では看護師が4名ローテーションで常駐している事で、スムーズな対応を図れることを強みとしています。医療との密接な連携は利用者の安心感にもつながっています。地域のモデル形態になるべく活動に率先して取り組んでいます。
3	タイトル	利用者との日常的な会話や毎月のメンバー懇談会を通じて各種活動の内容を決定する等、利用者の声を日々大切にしています
	内容	事業所内は、日々の活動である革工芸やリハビリ訓練を通して・楽しみ・自主性の尊重・生きがいの3原則を大切に日々活動しています。職員も明るい雰囲気大切に、利用者とは良好な関係を築き、笑顔で接しています。利用者への支援の方法についても職員側で一方的に決めるのではなく、利用者とは話し合いながら意向や要望を確認しています。毎月メンバー(利用者)懇談会を開催し、意見や提案を収集できる場を設けています。利用者からの意向や要望に基づきリハビリ器具を新調や日帰り旅行の行き先を決定する等利用者の声を日々大切にしています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備えての事業継続計画についても整備を進め、災害に備えた対策がより一層強化されることを期待します
	内容	災害に備えた取り組みでは、災害時マニュアルを整備しているほか、年2回避難訓練を定期的実施しています。今後に向けては、災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備えての事業継続計画についての整備も期待します。さらに、災害備蓄品について必要数確保できているかの確認のほか、送迎中に地震に見舞われた際の対応、さらに電話回線が不通になった際に家族に対してどのような手段で利用者の安否を伝えていくのかについてなどもより明確にできると良いと考えます。今後の取り組みを期待します。
2	タイトル	今後に向けてはキャリアパスについても作成し、それと連動する形の個別の育成計画を策定し計画的に職員の育成が図られることを期待します
	内容	職員の知識や技術の向上に向け内外の研修のほか、職員業務評価シートを活用し各職員が上期、下期の目標を記載し、「職員業務評価シート」において業務評価を行っています。業務評価の結果については職員との個別面談を通じてフィードバックを行い、職員は評価の結果を受け今後の目標達成に向けた「アクションプラン」を策定しています。今後に向けては、職員の育成をより計画的に進めていくためにもキャリアパスの策定し、それと連動する形の個別の育成計画が作成できると良いと考えます。職員育成に向けた事業所独自の仕組みづくりを期待します。
3	タイトル	マニュアルに記載している法人名が前法人名が残っているケースも確認できたため、現法人名で統一されることが望まれます
	内容	業務や支援の標準化に向け、各種マニュアルを整備しており、毎年改訂や見直しを重ね各種マニュアルは完成度の高いものになっています。また、常勤会議や職員合同会議などで協議を重ねながら必要なマニュアルを新たに整備し業務や支援の標準化に取り組んでいることは評価できます。今後に向けては細かな個所ではありませんが、マニュアルに記載している法人名が前法人名のまま改訂されていないケースも確認できたため、今後の見直しにあたっては新法人名で統一されているかについても確認できると良いと考えます。今後の取り組みを期待します。